

みんなの県政

1972/6
NO.42 富山



特集

自然のなかの人間

《動き始めた自然保護》



立山ブナ坂のリス

6月の園芸

しっとり雨に濡れる花々の美しさが生き生きと目に映る六月には、ハナショウブ、グラジオラス、ダリア、マツバボタンなどが咲きます。

とくにはなしょうぶ（あやめ科）は日本で改良された園芸植物で、庭植え向きの江戸系、鉢植え向きの伊勢系、肥後系と三系統に分れます。が、何といても一番美しいのは肥後系でしょう。株分け栽培ですが、性質が強い植物なので栽培しやすいようです。



シナノキンバイ▶

立山の花、シナノキンバイ

〈表紙せつめい〉 国泰寺開山忌

後醍醐天皇から賜わったといわれる「護国摩頓巨山国山仁王万年禅寺」と書かれた額を山門に掲げる、臨済宗国泰寺本山は、嘉暦2年（1327）慈雲妙意が創建されたもので、高岡市西田町にある。

応仁の乱後荒廃し、その後修復を重ねてきたこの寺の境内には、孟宗の大竹林がある。この竹に起因したのかどうかは、さだかでないが、6月の1日2日の開山忌には、尺八の吹奏がおごそかに行なわれる。また毎年尺八の教えを受けるため、全国から多くの虚無僧が集まってくる。なお、最近社員教育の一貫として、禅の教えを乞う会社も少なくないという。



もくじ

- 1 ■特集 自然のなかの人間
〈自然保護の原点〉ほか
- 6 「知事と語る会」から
- 10 ◀カラーグラビア▶ ふるさとのみち
- 14 PCBによる汚染防止について
- 16 □カメラルポ□ 富山県農業試験場
- 19 越中の伝説 “雪見橋”

自然保護の 原点

近い将来、あるいは遠い未来に人間と自然との関係はどうなっていくのでしょうか。

これはきわめて重要なことにちがいません。ところがこと自然に関しては予測の根拠となるべき現況がよく知られていません。公害、環境汚染、貴重な動植物の危機などと騒がれるのも、急速な経済成長のひずみでもありますが、自然のとらえ方がこれまで一部分に目をうばわれすぎて、自然の全体像の正確な把握をおこたったことにもあるといえます。

それほど、私たちのこれまで得た知識は貧困であり、自然は複雑で多くの未知数が残されているということです。

かつて東京で「自然を返せ」生きもの連合」のデモ行進がありました。産業開発を優先した自然破壊と、たれ流しの公害に対し、被害者である生物総ぐるみの抗議の行動のようです。デモに加わった人の数もさることながらその背後には幾千億、幾兆もの生きものの怨嗟（えんさ）の声があったことでありましょう。

私たちの幼いころ、夕焼けの空をかきにたり竿になりして渡るガンの群れがありました。「先頭はお父さんガン、しんがりはお母さんガン」と教えられました。

子供をいつくしむ献身的な父母の姿をそこに見たものです。ところが最近は見上げる美しい空はなく、渡りのガンもまったく見られなくなりました。

本年一月にソ連の依頼で全国一斉にガンの渡来地の調査がなされましたが、本県では一羽も確認されませんでした。

同じように畑のどの竹竿にも必ずとまっていた赤トンボや、小川のメダカやアメンボも少なくなつたことに、ただいちまつの寂しさを感ずるにとどまりません。

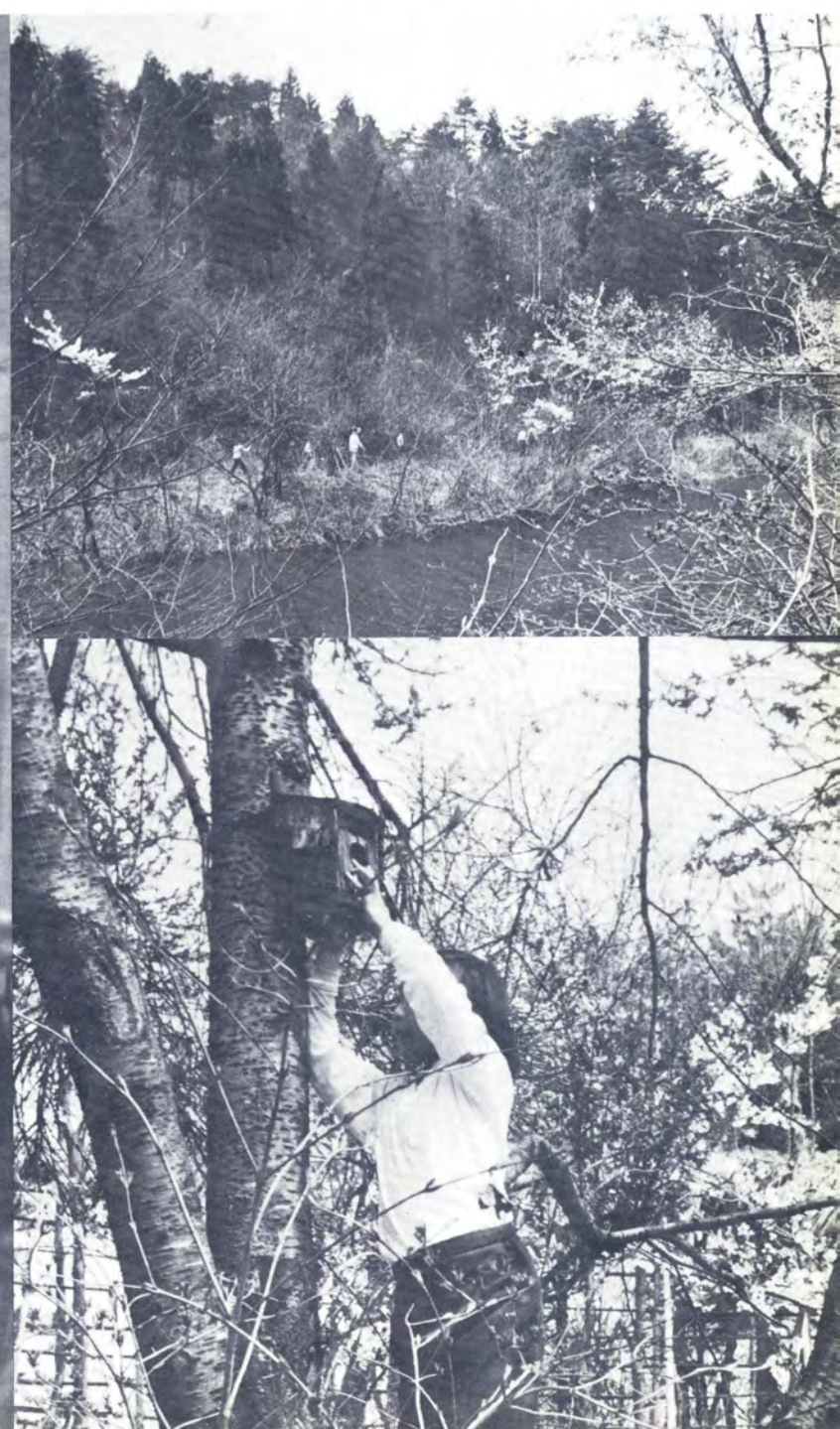
最近の公害問題の発生から自然保護対策が積極的に叫ばれています。しかし、公害の主力は利潤追求を優先した経済成長の責任であり、自然保護は生物全体の調和の問題としてより高い人間のえい知に期待されるべきもので、これを混同して、問題の本質を見誤ってはなりません。

自然の基調は 「水・緑・鳥」

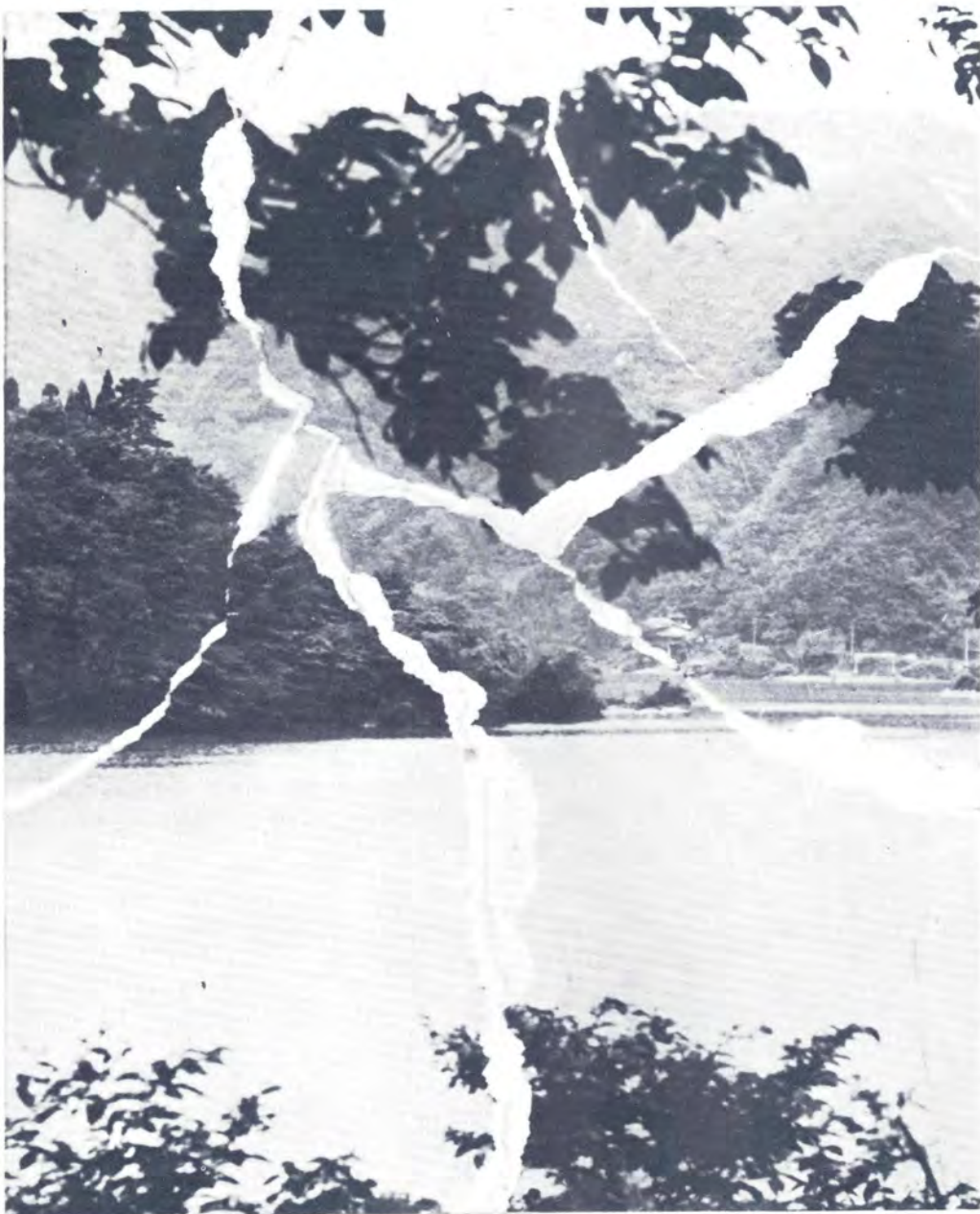
自然界はそれぞれの生物のバランスのうえに成り立っていることはよく知られているところですが。水は生命にとって根源的なものであり、緑は水を生み空気を汚染から守る貴重な存在です。そして鳥は自然環境の指標として自然保護を理解するうえできわめて象徴的な存在です。鳥の住めない環境とは自然が破壊された状態をあらわし自然の破壊された地上とは人間の生存を拒否する環境に通じます。

水は緑によって保全され、緑は野鳥によって守られます。したがって水と緑の恩恵に浴して生存している私たちは、野鳥を大切にすることを義務があるといえましょう。

野鳥もまた水と緑のお返しを受けています。このように考えますと好ましい自然とは、鳥や生物にとって安息な空間であり、これこそ生物の一員として人間の安全な自然であるという事です。



水鳥は自然環境の象徴



自然の 賢明な利用

私たちは、いままで科学や技術の進歩は人間にとって無条件によいことと考えてきました。産業の発展に伴って大気や水が汚されるが、いずれ自然が浄化してくれると考えていました。ところが、今ではその限度を超えてしまっています。この面から技術を抑制しなければならぬこともでてきました。

したがって、どこで抑制するかということが「賢明な利用」につながるといえます。このことは観光開発にもいえます。

観光資源まで食いつぶしては今後持続性のある観光事業は望めません。ちょうど預金と同じことです。元金まで引き出しては何も残りません。利子利用が望ましい開発なのですから、どうやら私たちの現在得たものは、公害に囲まれた質の高い生活であったといったら過言でしょうか。明日には緑に囲まれた快適な生活でありたいものです。



荒涼たる自然にならないために



速急な自然保護対策

「住みよい富山県をつくる」ため今年の四月知事直属の自然保護室が発足しました。四十数億年もかかって進化してきた自然は、ここ数年著しくその秩序が壊されてまいりました。その壊された歪みが好むと好まざるにかかわらず私たちにふりかかってきました。私たちは変革された自然にどのような秩序をあたえ、どうして平衡を保たせるか責任を負わされています。

県では大きく地球の環境問題とまでいかになくとも、身近な県土の自然保護対策に急いで取

組みました。

県民の健康と文化的生活を確保するため自然環境保全条例の策定を急いでいます。またあわせて動植物や水質など自然保護に必要な基礎資料の集取と速急な対策のため生物総合調査など多くの事業をすでに始めております。自然保護は取りも直さず人間保護へのパスポートでありますから、総合行政を推進するとともに皆さんのご協力をお願いいたします。

緑に包まれた宅地造成

▼ことしの四月から自然保護室を設けられ環境の保全に努力されるようですが、住宅地帯においても自然に親しむことのできる配慮が必要と考えます。

●富山県は他の県とくらべて住宅に対する緊急性が低いのです。しかし自分の家を持っている人の率が全国首位でも次第に核家族化が進んで住宅問題は深刻になっていきます。市や町で都市計画を行ない住宅地帯、商業地帯といった区分をして街づくりをすすめていっているのですが、富山、高岡などでは急激に人口が集まってきているので追いつかないのが現状といえます。

県としても市町村と調整をはかりながら、土地開発を中心にして都市の再開発を考えていっています。具体的には新港背後地の工場団地へ工場を集中的に移転し、環境の悪い住宅の移転を将来にわたって考えてゆかなければならないと思います。

住宅の環境はよりよくという気持と一方で便利になることも条件になります。

いままでの土地利用計画の反省をふまえてこの二つの希望を満たすため、全体の環境整備計画の中で考えていきます。

セーナー苑を公立に

▼精神薄弱者の生涯の安定収容施設としてセーナー苑を公立にしたいと考えています。

●社会福祉施設として県立のものに、例えば精神薄弱の人を収容する施設、職業を身につけてもらう授産所、あるいは老人ホームなどが多くあります。しかし、セーナー苑のような民間の善意を集めた法人組織は県内では一つのものであります。

県民がお互に協力し気の毒な人をたすけあつてより立派なものをつくっていくこととする姿勢が大切だと思います。その精神をつちかためていくため、不幸な人々が生涯暮らせるコロニーをつくる構想をたて、募金をはじめたいと考えています。

石川県では、こういった民間の施設が大半をしめています。

コロニーの建設に県が補助をすればよいのですが、募金活動からはじめないと真の意味のこうした施設の運営はむずかしいと思えます。県民全体がこの機会に施設をつくろうではないかという奉仕の気運が盛り上がり、豊かな人間性の向上に役買うことも期待しています。

あわせて、県立の社会福祉施設の充実と民間の人たちの運営する施設がともに両輪として動いてゆく形が理想といえます。いままでのセーナー苑の組織も少し改善し

介護人の待遇改善などの中から、早い機会に募金運動をはじめたいと考えています。

新空港の設置

▼現在の富山空港は、旅客の増加、航空機の大型化などによって拡張あるいは新しく建設しなければならぬと思われまします。新空港問題に対する県の考え方を聞きたい。

●新空港については目下調査していますが、総合的な交通体系の中で考えていかなければなりません。国内はもとより国外へも、短時間で行けるという飛行機の果す役割はすばらしいものです。

しかし富山県として三大都市との一日行動圏という第四次の県政総合計画の目的は、北陸線の複線電化、高速自動車道、そして着工のみとおしのたつた北陸新幹線などを含めて考えると、ほぼ目的を達成できると考えられます。

いま、二、〇〇〇級の滑走路を持つ空港をつくるとした場合、まず第一に山岳の多い本県に絶好の場所がない。ジェット機による騒音公害、また建設に一五〇億から二五〇億円の費用が必要なこと。それが過剰投資にならないか。北陸新幹線が開通したときの採算の問題などがあげられます。

こういったことで、すぐには結論は出しにくいのですが県民のプラスになるように検討していきます。



高校の定員増を

▼県立高校の定員を増やして欲しいのは、県民多数の要望です。また普通科と職業科の比率を六：四の割合にしてももらいたい。

●富山県の高校入学率は、中学卒業者に対して七三割と全国で高い方です。高校はいまや義務教育化してきて、希望者全員が入学できればいいのですが、学力の問題がありいろいろいっていません。

普通科と職業科の比率ですが、全国的には六・四から半々近くの割合になってきて本県とは逆の現象になっていきます。いままで七・三と言われてきましたが、実際は六三・三七であり、ここ二年で五五・四五くらいに近づけてきました。

一度比率をきめると少くともその成果がでてくるのは三、四年後です。学級の増減は施設、収容率、教師といった問題から臨機応変にはいかず、急激に変更することは生徒に不公平を強いることにもなりますので、今後、生徒の希望や時代の動きをみながら、将来のみとおしをたてていきたいと思えます。

基盤整備事業に一考を

▼県の基盤整備事業をもう少し短期間に完了していただき、あわせてこの事業の融資に一考をお願いしたい。

●基盤整備事業は省力をすることが最も大きな目標です。現在常願寺川の左岸で三、五〇〇ヘクタールを大規模な場整備として実施しています。

いままでのペースからいくと、この先十年はかかるとは思いますが、スーパー農道の建設もあり、ながくとも五年くらいで完成させたいと思っています。

基盤整備事業は国が五割、県が二・五割、残りが受益者の負担となっています。

この事業は全国で富山県が最も多く、県は総予算の一三割を投入して実施しています。農業経営者の方の負担については、国の制度資金を活用されると二・五割の八〇割まで年六分四厘で貸してくれます。これを二五年で返済すればいいわけですから自己資金を使わず年ごとの収穫でまかなっていきけると思えます。

モータールの規制を

▼最近いたる所にモータールが建ち、風紀上好ましくないので規制できないか。

●ここ数年、近郊住宅地域にいわゆるモータールが急増し県下に五三ありまします。いまのところ直接規制する法律はなく、また建っているものをやめさせることもできません。

しかし新たに農地を転用して建てる場合には、図書館、博物館、児童公園などから一〇〇以内には許可できないという基準があります。さらに近く風俗営業取締法が改正されると、モータールの定義をはっきりさせ地域の風俗環境を害し、犯罪が増えることのないよう、県の条例で定めた地域での営業を禁止できるように、営業の廃止を命ずることができるようになると聞いています。

これにしても、基準の適用や範囲を定めるには、いろいろむずかしい問題が生じ、さらに個人の営業の自由とのかねあいということもありましますので、好ましくない業態をなくすよう検討を重ねていきたいと考えています。

「知事と語る会」から

いままでの県政公聴会はことしの4月から「知事と語る会」と名をかえてスタートしました。親しく県に対する要望や苦情を話してもらった中から、そのいくつかをひろってみました。(小矢部市と富山市で開催)

サケ・マスの人工ふ化

ことしもサケ・マス県船団が北洋をめざして魚津港を出航していきました。年ごとに漁獲資源が減っていくといわれていますが、サケ・マスについては科学的、計画的な育てる漁業へと変わってきています。

富山県でもサケの資源確保のために、六つの河川で毎年、漁業協同組合がサケの人工ふ化事業を行なっています。(表一参照)

川の水質汚濁が問題になりますが、最近徐々に回復し、とくに庄川では、昭和四十六年の秋に四、八五〇尾の漁獲をあげました。四年前に稚魚を放流した成果が、あらわれたといえます。

県下の河川で約七、〇〇〇尾以上の漁獲をあげていますが、庄川の結果から他の河川で

も人工ふ化が進められています。

○黒部川サケ人工ふ化場の完成
黒部川内水面漁業協同組合は、黒部川にさかのぼってくるサケを維持し、ふやすため国や県の補助をうけて、昨年の秋から入善町本村地区に二、三〇〇万円をかけて建設していった人工ふ化場が四月一日に完成しました。

今後、サケの卵一五〇万粒のふ化を計画するほか、びわ湖産のアユの短期養育、その他ヤマベ、イワナなどの冷水性淡水魚の人工ふ化を行なっていく予定です。

この黒部川のふ化場は、庄川漁連のふ化場につぐ県下第二の施設として、内水面漁族の繁殖保護に果たす役割は大きく、関係者の期待をあつめています。



わが県におけるサケ・マスのふ化状況

ふ化場	採卵数 千粒	移入卵(山形県より) 千粒	放流用稚魚 千尾
黒部川	210	800	93
布施川	165	483	597
神通川	750	1,500	2,072
庄川	1,464	483	1,794
小矢部川	50	150	184
計	2,639	3,416	5,577

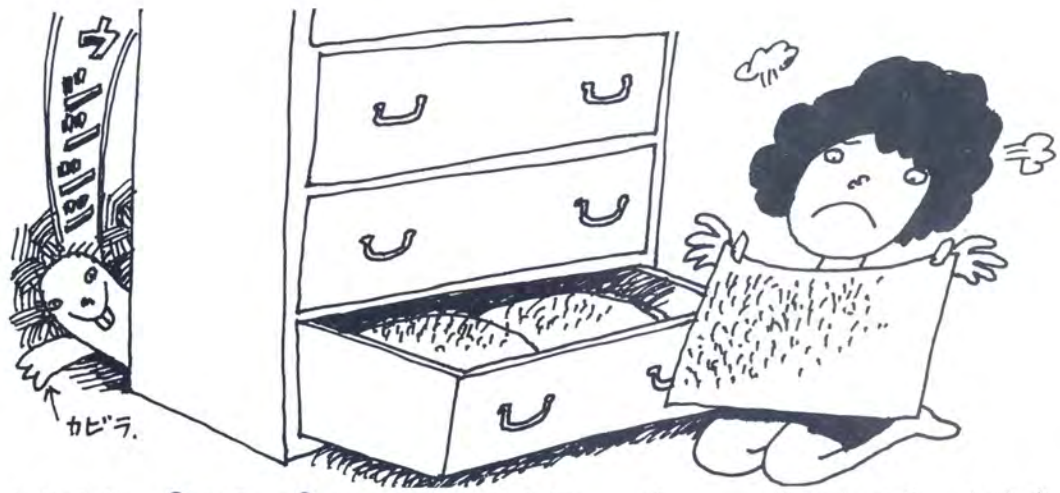
サケの習性

サケは川で生まれ、海で育ち、成魚になって産卵回遊し、河川をさかのぼってきます。多くは生れた川を選んでのぼる習性があり、この習性を回帰性といっています。

産卵は九月十月ころで親魚は一雄一雌の状態で上流までのぼり、砂利の多い場所を産卵場とします。産卵場は主に北海道ですが、太平洋側で福島県、日本海側で福井県から北にある河川となっています。

サケは一尾二、〇〇〇〜二、五〇〇粒の卵をもっています。このうちで生れた川へ帰ってくるのは〇・二〜〇・三パーセントといわれています。「イクラ」「スズコ」といってのがこの卵です。

産卵してから六〇日くらいでふ化し、春になると海へ出ていきます。遠く北太平洋へむかって回遊して、四、五年でふるさと川へ帰ってきます。役目を果たすとサケの一生は終ります。



六月の声を聞くと、毎日毎日かさをさして歩かなければならない日が続くようになりま。部屋はジトジト、からだの調子も落ちてきます。

この梅雨どきは、衣類にとっても要注意の季節です。気温が上がるうえに、湿度が八〇パーセント前後と高くなるため、カビが発生しやすく、衣類の手入れは慎重にしなければなりません。目に見えない汚れでもカビの原因になります。

〈防湿剤の活用を〉

衣類をしまう時には、防湿剤といっしょに防湿剤も入れてください。カビを防ぐには、まず、汚れを落とすことが一番ですが、湿気をとり除いてやることも大切です。最近では、モルタルや鉄筋コンクリート造りの住まいが増えていますが、新建材やアルミサッシを使い部屋を密閉するため、ますます湿気がこもりやすく、温度も上りやすくなっています。

●防湿剤の種類

防湿剤には、シリカゲル、石灰などがありますが、衣類にはシリカゲルが適しています。

●防湿剤の量

タンスの引出しには二〜三袋(一袋二〇グラム)、茶箱なら五〜六袋程度を目安に入れてください。

●シリカゲルの再生使用

シリカゲルだけでと、どれくらい水分を吸ったかわからないので、塩化コバルトを浸み込ませた青色の粒がまぜてあります。これは吸湿すると、ピンク色に変色します。すっかりピンク色になったら、フライパンなどでからいりして水分を発散させると、ふたたび吸湿するようになります。

カビの知徳

カビがはえたらまず、ブラシをかけてとれるだけのカビをとり、ビロードの布でふきまが。これで全部とれたら軽症です。

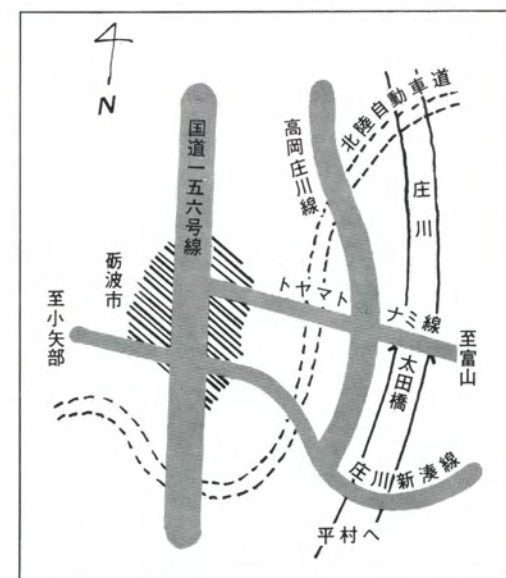
がんこなカビは、赤や黒、黄、緑などのボツボツになって固くくっついたものです。まず、水洗いできるものは洗剤で洗います。洗って干してもまだシミが残れば、シミの上に酢をつけて湿らせ、十倍に薄めた次亜塩素酸ソーダー(漂白剤として市販されているもの)を、つま楊子の先につけて、ボツボツの上に塗り、シミが消えたらゆすいで干します。ただし次亜塩素酸ソーダーを使うときは、注意書きをたしかめて下さい。繊維によって使えるものとそうでないものがあります。

その他の薬品をつかって、カビをとる方法もありますが、上等な衣類や、がんこなカビは、最初からクリーニング店に頼んだほうが安全です。

衣類をカビから守るために

沃野を走るみち

鉢伏山頂からながめる砺波平野は、人をして悠久な自然と素朴な人情を感じさせる。庄川の氾らん、天災をくり返しながらふみかためてきた歴史、その歴史ある風景
カイニヨウで囲まれた孤立荘宅が点在する中を縫ってゆく帯は、北陸経済圏と関西経済圏を二・五時間で結ぶ北陸自動車道
農民が営々と自作の野菜や産物をついで歩いた道は、いま豊かな田園都市へとつながる日も近い。



○砺波地方の文学散歩

稲垣史生「小説チベット」「乱世」
岩倉政治「新しき道義」「村長日記」
「稲熱病」「田螺のうた」

○あし 国鉄高岡駅から加越線鉄道で石動、庄川町へ

問 私達の自由と権利を守る人権擁護委員制度が設けられています。この制度の内容を説明してください。

こたえ この人権擁護委員は、各市町村長が選挙権のある住民の中から人格識見が高く、広く社会の実情に通じている人の中から選考して、市町村議会の意見を聞いて法務大臣に推せんします。

法務大臣は、推せんを受けた者について関係都道府県の知事、弁護士会および人権擁護委員連合会の意見を聞いたうえで、委嘱するのです。したがって人権擁護委員はあらゆる階層の人たちから選ばれています。

人権擁護委員の任期は三年です。

任務の主なもの、次のとおりです。

- 一、自由人権思想の啓発
- 二、民間における人権擁護運動の助長
- 三、人権侵犯事件の調査、報告
- 四、貧困者に対する法律扶助のあつ旋
- 五、人権相談

このように人権擁護委員の使命は、それぞれの地域住民の中で、国民の基本的な人権が侵害されないようにたえず監視し、もし、侵害があつた場合には、その相談相手になり、その侵害を排除して救済したり、人権思想の普及と高揚に努めたりすることです。

人権擁護委員の実際の活動を述べると次のとおりです。

人権を犯された被害者または関係者から申告があつた場合、あるいは新聞、雑誌その他の出版物、テレビ、ラジオなどを通じて人権侵犯の疑いのある事実を見聞した場合には、ただちに、関係法務局または地方方法務局と連絡をとって調査に着手し、調査の結果、人権侵犯の事実が明らかになれば、その事件に最

ご質問にこたえて

も適した方法で被害者を救済することになります。また人権尊重の立場から、調査に当たっても、問題の処理に関して、あくまでも公正な立場に立つことが要求されます。また厳に関係者の秘密が守られなければならないことも当然です。なお人権侵犯事件の調査は任意の調査で、強制力を行使することはありません。ただ人権侵犯事件についてもそのすべてを人権擁護委員が調査するわけではなく、すでに司法機関が事件について手続きをゆだね、またその内容が明らかに刑事事件を構成すると思われるのであれば、警察庁に、また生活保護関係であれば、民生委員や福祉事務所

などの専門機関に依頼、またはこれらの機関と協力して人権擁護活動を行なうこととなります。

しかし、それらの機関の救済のみでは必ずしも十分な解決が得られない場合も少なくありません。

たとえば「村八分」などの場合のように、その行為を脅迫罪や名誉毀損罪などで処罰したとしても、解決とはいえません。「村八分」などがいかに人権尊重の精神に反するものであるかを関係者に十分理解させることによつて、自発的にその状態をやめさせ、被害者の救済をはかることが重要なこととなります。

県民福祉の向上を願う



昭和三十年代に掲げられた高度経済成長政策は、あらゆる政策に先行して遂行されました。

その結果、日本に史上空前の経済繁栄と国民総生産(GNP)二位という金字塔を打立てたかに見えました。

しかし、その金字塔たるや、多くの虚構と矛盾とによって樹立された。傷だらけの栄光でありました。

たとえば、国民総生産が第二位にたいし、国民一人当りの所得が世界第十七位であつたり、また、われわれの住んでいる生活環境に目をやると、公害禍、交通禍、物価高、深刻な農業問題、過疎・過密など、多くの問題を山積させておられます。名実ともに世界で二位とか三位という地位を占めるには、一九七〇年代はその虚構や矛盾を取りはずして、真の福祉国家の建設を目指し、社会開発にその力を置かなければなりません。

つまり、経済優先、産業開発偏重思想を排して、国民生活優先の思想に転換することがこんにちの政治課題であると認識するわけですから。

一方、わが富山県は、過去、どうだったでしょう。富山県も例外でなく、その時代には高度成長経済政策推進の模範県として、新産業都市計画、県勢総合計画を遂行させ、北陸随一、いな、日本海でも有数の工業立県とし

て君臨するにいたりました。

そして、道路網が整備され、富山新港が築造され、工場用地が確保され、産業人を収容するための住宅が充足されて、あちこちで、工場が新・増設され、林立するにいたりましたが、それと引替えて「公害デパート県」「七・三教育のひずみ」であらわされるとおり、産業開発偏重政策の「ひずみ」は明白でした。

一九七〇年代に突入してからの県政の指向は、「福祉の中田」「老人の中田(県政)」で表徴されることと福祉行政、教育行政にその充実を見せ、産業偏重政策の手直しを、かなり鮮明に模索する姿勢は、健康で文化的な生活を願う県民にとっては大変に喜ばしいことであり、より一層の推進を願うものだと思います。

つまりは、県政に二、三の要望をしたいと思います。

- 一、工業奨励措置の存廃について 富山県工業奨励規則第七條には「公害の発生防止に適切な措置が講じられていることと、地域振興に役立つこと」の但し書きをつけて奨励措置がはかられているが、現実には多くの優遇措置が講じられている。こんにち、国民生活を優先させ、その遅れを取りもどすための施策が先決であることを考えれば、産業奨励策のものを否定できなことをして、工業奨励措置の存廃の再検討と、併せて、市町村で制定している工場誘致条例についても廃棄すべき時期に到来していると思うが、いかがでしょう。

- 二、老人医療費について 老人福祉行政の根幹をなすものとして、来年一月一日から、老人医療費の無料化がすすめられることは、好ましいことです。しかし、この中で、所得制限を課しております。今後、段階的解消に向かうでしょうが、県としてはその差額分を

肩代りできないものでしょうか。また、六十

五才以上のねたきり老人、身障者、精薄者への助成にも所得制限がありますが、これらを撤廃して完全無料化できないものでしょうか。

- 三、乳児医療について 富山県の乳児死亡率は戦後一貫して、全国平均を上回っている。なかでも、新生児の死亡率は、とりわけ高率を示しているという不名誉な記録があるが、これの対策として、乳児医療体制の充実と、併せて、全国に先がけて、乳児医療費の無料化をすすめてもらいたいものです。

- 四、青年の船について 中田知事の公約として掲げられ、他府県に先がけて実行されましたが、世界は、ますます、近く、かつ狭くなっていくこんにち、各国青年との交流を通じて親善に役立てるとともに、見聞を拡げて視野の広さにつとめることは、まさに時宜を得た施策と考えます。いま一つ、我々を申せば、自己負担の六分の一を解消すること。もっと多くの青年が渡航できること。もっと多くの国々の青年との交流が通えば幸いです。

滑川市中町 畑 英次

妊婦検診の実施を

私には、三才と一才の男の子がおります。やんちゃばかりしている子供たちを毎日追いかけておりますが、この子らが無事にすくすくと大きくなってほしいと思いがから過しております。富山県では新生児の死亡率が全国平均より高いとのことですが、十ヶ月もの間楽しみにしていた赤ちゃんが産れてすぐ死

のような場合こそ、その地域住民の中にあつて、指導的立場にあり、その土地の風習や人情に通じている人権擁護委員の活躍が大いに期待される分野となります。

また人権擁護委員にとって、役所に対する苦情から家庭内や隣近所とのトラブル、借地・借家、交通事故などの問題の相談も大きな仕事です。このような相談を人権相談と呼んでいます。このような相談が取り扱った人権相談は相当な数になると聞いております。そのほか、民事上の問題について、裁判によって解決を得たいと願いながらも、その費用の調達ができずに困っているという人に対しては「法律扶助」という制度によって費用の立て替えが受けられるようにあつ旋するなど貧困者の訴訟援助も行なっています。

これらの人権に関する相談は、法務局(地方務局)の人権擁護部(課)に設けられている常設相談所や市町村役場などで開かれる特設相談所に応じていますが、このほか、人権擁護委員の自宅でも受けています。

さらに、人権擁護委員は、このような個別的な啓発活動のほか、広く地域住民を対象とした一般的啓発活動も行なっています。

たとえば、座談会、講演会を開催するほか有線放送、新聞などを通じて、国民のひとりひとりが人権について十分な理解と自覚を持ち、各人がみずから同じように他人の人権も尊重するように努めています。

このように人権擁護委員は、その地域住民の中にあつて、地道にそして着実に、人権問題で困っている人たちの真の相談相手になっているのです。

点滴

でしまるのは悲しいことです。将来どんなにすばらしい芽を持ち伸びてゆくかも知れない子供をなくすことは県や国にとっても大きな損失です。出産は病気ではないという気持ちで赤ちゃんと大事にしないのではないのでしょうか。そこで、なおのこと市町村の力で、母体にいる内から保護してほしいのです。それは「妊婦検診」の実施です。

現在のところ妊娠しますと各自でお医者にゆき体重や内診など、調べてもらいます。町で行なわれる妊婦教室ではたたくさんの助産婦さんが来て下さいますが、話や体操だけで一人目の時は、母親もまわりの者も大事をとってせつせつと、どちらへも通いますが、二人目、三人目になると、医者へゆくにも月が遅れてから行たりします。本県では特に婦人の労働者も多いので、なおのこと仕事を休んで高いお金を出して行きにくいのではないかと考えます。そこで、町が月一回、妊婦検診を実施して、貧血、体重、腹囲、梅毒、内診個別相談をして下されば、職場からも家庭からも出やすく、二人目三人目の子供も公平に保護され、親は安心して産むことができます。

これに加えて、牛乳を毎日一本産れるまでくばったり、ママミルクを支給するなどして下されば、新生児の死亡率はグンと減り、喜ぶ人々も多くなると思います。きっと丈夫で元気な赤ちゃんがたくさん産れると考えただけでも楽しくなります。明日の世界をにやう子供達のために、早期に実行して下さい。とをせつにお願ひ申し上げます。

東砺波郡井波町井波四二六の三
小西 真沙子

PCBによる 汚染防止について

PCB（ポリ塩化ビフェニール）は、昭和四十三年ごろ西日本一帯に発生したカネミ油症事件の原因物質として注目され、さらに、昨年十二月の調査で、PCBと全く関係のない一般住民の体内に蓄積されていることがわかり、にわかにはPCBによる環境汚染が全国的に大きな社会問題となりました。

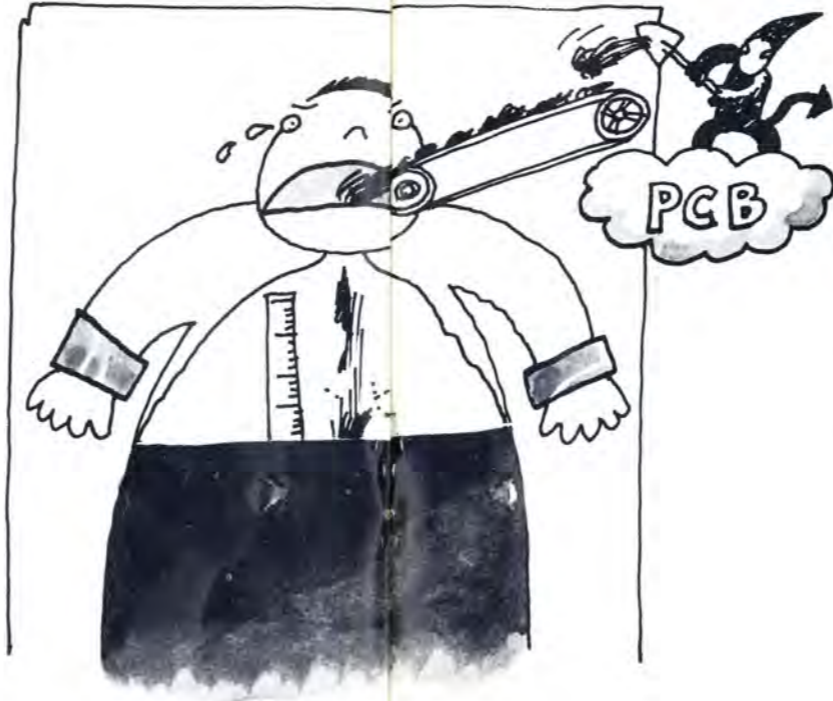
PCBは、農薬であるDDTやBHCなどとともに一種の有機塩素化合物ですが、化学的にも熱にも、また、電氣的にも安定した特性をもっているので広い分野において使用されています。

私達の身の回りにも、カーボン紙を使わないうで複写できる感圧紙をはじめ多くのものがあるようです。

県では、PCBによる環境の汚染を防止するための調査、分析並びに指導を行なっています。また、国においても規制および処理施設の開発などの対策を進めているところです。

PCBの潜在物

- ・閉鎖型（密封状態で使用されるもの）
- ・コンデンサー、トランスの絶縁油
- ・熱処理用の熱媒体



- (2)開放型（直接環境にさらされるもの）
- ・塗料、印刷用インク、ノーカーボン紙
- ・電線の被覆物。

PCBの毒性

- (1)急性症状
- 皮膚障害および肝臓障害があげられます。普通の人では一人あたり0.5〜2グラムのPCBを摂取すると症状があらわれるようです。
- (2)慢性症状
- 人についての慢性毒性及びその症状は明らかでないが、一応体内に入ったPCBは、排出されないで脂肪組織に蓄積するといわれています。

PCBの規制基準

わが国には、PCBについての規制基準がないので国では権威者にはかって暫定的な基準をつくりつつあります。

アメリカで、ことし三月十八日改訂した食品などに含まれるPCBの暫定基準があるのを参考にすることができま。

アメリカにおける食品等の暫定基準

	(単位ppm)
牛乳（脂肪ベース）	二・五
乳製品（脂肪ベース）	二・五
家きん肉（脂肪ベース）	五・〇
卵	〇・五
家畜飼料	〇・五
家畜飼料原料（魚粉を含む）	五・〇
魚類（可食部）	五・〇
乳幼児食品	〇・一
食品包装材料	五・〇

④ 1ppmは、百万分の一。つまり一万ppmは、一％にあたります。

- ・板紙工場 一検体 不検出
- 〇・〇二〜〇・〇五
- (5)その他
- 卵、牛乳、豚肉、鶏肉、海産魚（ハチメ、カレイ、バイ）などは、目下分析中です。

まとめ

PCBは、現在、全国的に使用制限と生産中止の措置がとられております。しかし、県内にはPCB入りのトランスその他の設備を持つ工場や故紙を再生する工場があるので、PCBを環境へ排出させないための厳重な管理が望まれます。さらに、一般に使用されるノーカーボン紙については、すでにPCB以外の薬品を用いたものが出回っていますので、購入時にPCB含有の有無を確認することが大事です。

このようにしても、過去に排出されたものによる汚染の蓄積により、PCBは、一挙に環境から姿を消すことにはないと考えられます。したがって、県では、今後引き続き監視を強化するとともに、適切な対策を継続的に進めてゆくことにしています。

本県におけるPCBの実態

県内の二つの工場がトランスやコンデンサーにPCBを注入する作業をしていたが、現在は完全にやめています。PCBは、前に述べたように多方面で知らず知らずのうちに使用されるおそれがあるので、県では食品及び環境の汚染状況を調査していますが、今までに判明した結果（単位はppm）は、次のとおりです。

- (1)母乳 三十検体 最高 九・一〇三 最低 〇・〇〇八 平均 〇・〇三四
- (2)水道原水 四検体 不検出
- (3)河川水 六検体 不検出
- (4)工場排水
 - ・トランス工場 一検体 不検出
 - ・コンデンサー工場 一検体 〇・〇四
 - ・ちり紙工場 二検体



不良食品の 一掃



生活水準の向上に伴い、食品産業の発達はめざましく、私たちに多種多様な食品を豊富に提供するようになりました。しかしその反面、余りにも多い種類と製造方法が複雑になって、一般消費者の食品の選択が、かえって不便になっていきます。たとえば、消費者が食品選択のよりどころとする表示の違反品や、不良食品、添加物の不正使用。最近では残留農薬や重金属、PCBなど、環境汚染物質が食品にまで浸入し、食品に対する不安感をつのらせる多くの問題が発生しています。いままでもなく、食品は私たちの健康の増進や生命の維持に深いかわりを持っているので、安全な食品の確保を求める声の日々に高まっているのは至極当然なことです。

一方、食品関係の営業施設数は年々増加しており、特に最近のレジヤームを反映して、ドライアイン、スナックといった新しい形態の飲食店の出現と規模の大型化がめだっています。

食品衛生の目標は、すべての食品や食品関係営業施設を衛生的に良好な状態に保持し、食中毒や不良食品など飲食によっておこる衛生上の危害の発生を未然に防止して、みんなが安心して食品を用いることができる状態にすることです。そのため、富山県としては、保健所が行なう食品衛生の監視指導の強化を最も重要と考えて、昭和四十七年度で食品衛生監視員と監視機動力の増強を実現して、増大する食品関係営業施設や多様化した食品などに対処すべく監視の向上を目指しています。

つきに、不良食品の発生防止や食品の安全性を確保するためには、食品などの試験検査は不可欠であり、その内容も年々高度化し、増大しているため、試験検査職員の確保と技術の向上および検査機器の整備を図り、検査数を増やすと同時に検査結果の監視指導への活用を期しています。

また、富山、高岡、黒部および福野保健所管内で六〇人の方に食品衛生モニターになっていただいております。その方々からお聞きする情報を行政に反映しながら、消費者に対して正しい食品衛生知識の普及を強化してまいります。

同時に食品関係営業者の団体である食品協会、自主的な活動を援助して、食品に対する営業者の社会的責務の自覚と衛生思想の高揚をはかっています。

最後に、最近とくにクローズアップされてきた工場廃水や環境汚染から食品の安全を守るためには、食品衛生行政の分野だけでなく公害防止や自然保護などの幅広い総合的施策が必要とされています。このため、国や市町村はもちろんのこと、民間の企業や団体等各分野との連携をより一層緊密にし、消費者に安心していただける食品の確保に努めてまいります。

- ①世代促進温室。自動的に昼夜を調節し、こ
こだけで三毛作ができる。
- ②原子吸光度計は稲や土に含まれるほんの
わずかな量の重金属も検出できる。
- ③土壤実験室 土のあらゆる性質をしらべる
基盤整備事業にも一役
- ④病理実験室 植物につく害虫な病気の種類
と防除法の究明。稲だけでも30数種類も。



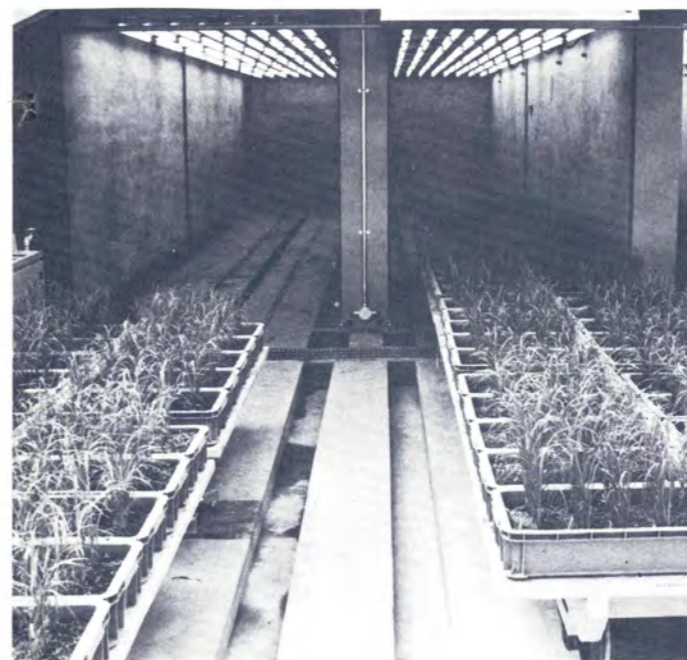
②



富山県農業試験場

はるか立山連峰を望む、富山市吉岡に2億
1,000万円をかけて建設された。敷地はいま
までの5倍に。

新しい地 富山県農業試験場 新しい設備



①

りっぱでじょうぶな稲、野菜、花、果物を、農家のみなさんが少ない労力で、たくさん収穫できるように、試験研究をひろくおこなっています。

富山県農業の基幹作物である、稲作の研究では田植えの機械化、雑草の効果的な防除、うまい米の新品種づくりがすすんでいます。農薬による農産物がよごれないようにその対策の研究や、カドミウムのような重金属で農地が汚染されるのを防ぐ努力が地道にかさねられています。ここでは病虫害の防除も大切なテーマです。農業近代化にむけて、農作業の機械化や、水田転作後の土地利用問題などもとりまかれています。ご自慢は、県立では全国唯一のアイソトープ実験施設。多角的に利用され、すぐれた研究がされています。

砺波園芸分場では、野菜、チューリップ、ヒヤシンス。魚津果樹分場では果物を専門的に研究しています。

建物百年

富山県史編さん室

広田寿三郎

風俗百年



明治のころ越中民家の八割を占めた農家は草葺き・板屋根の差し下ろしで、土間の大戸をあけると、広間のまわりを骨太の大黒柱が囲んでいるのが自慢であった。間取は、仏事を行なうのにつごうよく配置されていた。豪農になると、こんもり茂った屋敷林の中に白壁の土蔵が見え、門続きの土塀で囲まれていた。これが加賀藩のきまりでもあった。町屋は板葺き二階建が多く、のれんを分けて格子戸をくぐると、土間の通路が細長く後庭まで通り抜け、店、茶の間、座敷と縦長に続いているのが多かった。こんな店屋がびっしり建込んでいたわけである。山家は合掌造のように葺きの高い屋根、太い柱、大きな入り口が特長であった。これは深い雪に耐えるためであった。こんな民家にも明治のころから次第に瓦ぶきがはいってきた。

洋館は文明開化の風と共に学校や官庁からはじまった。最初の洋館は明治八年に建った伏木小学校で、これは一代の海商、藤井能三が独力で建てたものであった。やがて第一中学(富山)第二中学(高岡)第三中学(魚津)と次々に洋風で豪壮な教育の府が建てられていった。つづいて明治二、三〇年に旧城址内に建った県庁県会議事堂がある。ゴシック風の三角屋根や円型屋根に、上げ下げ窓、円柱の堂々としたものであたりを威圧していた。このような洋館は郡役所警察裁判所と次々に建てられていった。この面影を今に残しているものに旧朝日町役場(現図書館)がある。それから堂々たるものに銀行があった。例えば第十二銀行(現北銀)は頑丈な厚い土蔵造り、

金網の塗込窓に観音開きの土窓の造り方であった。が間もなく豪壮な赤煉瓦にかわった。大正のころともなれば、トンガリ帽子の赤い屋根、ベンキ塗にカーテン引いて、甘いメロデーのレコードの聞えるハイカラ住宅も生まれ出し、一般住宅でも玄関わきに赤い絨氈にペーチカ風の暖炉が燃える応接間ができるようになってきた。しかし大切なお客さんは奥の応接間に通ず和洋折衷の風がまだ消えなかった。洋館では現在の県庁舎は昭和一〇年に神通川の埋立廃川地の真中に一二〇万円で建ち、電気ビルは昭和一一年に、大和デパートは昭和一八年に建てて県都に偉観を添えるようになってきた。

戦後は、三〇年過ぎになると景気も次第に回復し、あちこちに洋風和風の素敵な住宅が建ちはじめた。先ず小作の古いきづなから解放された草葺き農家が瀟洒な文化住宅にかわり、ついで町家に及び明るいシヨウウインドーに美しいマネキンが引き、アーケードがつづいて一町一店のような姿にかわり、郊外には赤い屋根青い屋根鮮やかな塗壁のサラリーマン住宅が緑の田園に花が咲いたように建ちはじめた。さらに住宅団地・社宅街、アパートの群が出現し、県都富山には高層ビルが林立し、観光地にはデラックスなホテルが研を競い、多くの旅客がサンザメくようになってきた。

このように各種の建物が千差万別に誰にも拘束されず好きな形、間取り、色美しく自由奔放に建つようになったのは現代の特長であろうか。

越中の伝説

ここ富山の町は東四十物町、八田屋の主人八郎右衛門は最前からにがりきった顔を一層しかめていた。

八田屋といえば、新鮮な魚とうまい料理が看板で、しかも安いのが評判であった。掃除のゆきとどいたスツキリした店に、いつも活気に満ちた若い衆が立ち働き、豊富な魚種が店頭を飾っている。二階にはきれいなお座敷もいくつあつて手軽に飲めるので利用客も多く、主人の八郎右衛門も明るい性格で、いつもニコニコしているのだが……、今日にはよほどのことがあつたのだらう。

そういえば、二階からバンバン乱暴に手を打つ音が響き、われ鐘のような呼び声がするたちのよくない客であらう。

この起りはこうであつた。

その日は朝から日本晴れで、このほか気持のよい日であつた。主人はじめ雇人一同よい気分ですばらしいマダロが入荷し、板場の若い衆は自慢の包丁を走らせていた。そこへふらりと通りかかった男がある。年のころ四十前後といえ男ざかりと考えられてしまうが、^{まあ}その貧相なことといつたらならない。破れ袴にうすぎたい羽織をひっかけ、冷飯草履をはいた奴がマダロと店先に入ってきて、色鮮やかなマダロが次々に刺身になっていくのを、しきりにツバをのみ、喉仏をヒクヒクさせながら見ていた。

そのうち、この男、たまらなくなつたとみえて、トントンとハシゴ段をのぼって二階座敷へあがった。

八郎右衛門、帳場から男のみなりをみて、うろんな奴と心中軽蔑したが、お客に差別はつけられない。間もなく手を叩く音がして女中が招かれ、刺身と酒を命じてきた。早速用意してさしだすと、男は独酌で刺身を一

雪見橋



切れずつ食べ、舌つづみを打っては嬉しそうにニタリ、ニタリと笑っている。それが二合となり、三合となる頃からポンポンという拍手がバンバンとなり、小声が嵐声となつて、主人を呼んでいこうとどなりだした次第である。八郎右衛門は仕方なく席へ出たあいつをつると、この男、マダロはどこで獲れたものか、味がいうえ板前の腕もよいとか、二言三言しゃべつたあとに

「実は拙者、今日は持ち合わせがない。そのかわり一枚の画を描いて与えるから料紙を持参してもらいたい」という。

八郎右衛門はあきれかたが、ことわつてはこの氣遣い、何をしてくるかかわかつたものでない。まずはいまままになって早く追い払うのが上策と考えて、へい、へいとばかり用意をととのえた。男は一気呵成またたく間に大鯛一匹描きあげ、そのままふらりと出ていった。この男こそ、藩主前田利幸公御典医野中丹室の屋敷に寄寓して、イタチ川の大橋で立山の連山を描いていた日本南宗画の巨星池大雅先生であつたのだが、八郎右衛門が知ろうはずはなかつた。

後日、捨て置いてあつた鯛の絵を見た人が驚いて、これは池大雅先生の筆、もつたいないことをすると八郎右衛門に注意したため、初めて気がつき、野中丹室を通じてわびを入れたが、その帰り道、八郎右衛門の顔はほくほくのえびす顔で、満面笑みをたたえてこぼれんばかりであつた。

八郎右衛門はこの絵鯛をさっそく表装して床に飾りますと、その珍談奇談が興味をおおります。その画幅をみたいものと来客がおしよせます。大雅先生立山写生の大橋は以来「雪見橋」と呼ばれて今日に至っている。

(精神開発研究委員 成瀬 昌示)

県政のうごき

4月11日～5月10日



県土を緑でつつみましょう



呉羽ハイイツ完成



風土記の丘オープン



北陸新幹線基本計画に

▼トピックス

●四月二日 武蔵野市と姉妹都市に
過疎に悩む利賀村と東京のベッドタウンとして急速な都市化をみせた武蔵野市が、姉妹都市となり、利賀村の総合センターで両市の盟約宣言調印書に調印、交換した。
自治体形式や生活環境のまったくちがった緑むすびは全国でも珍らしく、成果が注目されている。

●四月四日 魚津浜にしんきろう
魚津市大町海岸で、午後一時ごろ海上越しに水橋から岩瀬方向にかけて松林の線上に四五年ぶり、しんきろうが出た。

●四月二〇日 松川に色ゴイ
神通川をきれいにする協議会は、色ゴイ一五〇〇匹を富山市内を流れる松川に放流した。

▼県政のうごき

●四月一三日 農業試験場、完工式
富山市の吉岡で建設工事がすめられていた県の農業試験場の完工式が行われた。用地買収から四年ぶり、七億四、〇〇〇万

円をかけて、北陸三県でもっとも規模が大きく、農業界づくりの原動力として、活躍が期待されている。全施設の完成は昭和四十八年度の見込み。

●四月一五日 ガイド山岳警備隊に
立山一帯の山岳捜索・救助活動の民間協力機関である県山岳遭難救助隊は、発展的に解消、ガイドら六人が県警山岳警備隊に新しく配置された。

●四月一八日 遊歩自転車道の建設へ
県民公園の一環として建設する遊歩自転車道の具体的な計画をまとめた。コースは、富山市五福一城山公園―大門町の延長一八・一五、幅員一五、中央部分の幅三・二を舗装して自転車道とし、ことしから四か年で完成する。

●四月一八日 県土を緑でつつみましょう
県土を緑でつつみましょうと富山市西町で中田知事らが県の木であるタテヤマスキなどの苗木の二、五〇〇本を通行人に無料で手渡した。
また苗木とともに「県民と緑」のパフレットを配付、家庭や職場の緑化推進を訴えた。

●四月二五日 春山ひらく
立山・黒部アルペンルートが春山開きし、広島県の中学生修学旅行の一行ら約三〇〇人が立山の春を楽しんだ。

●四月二八日 呉羽ハイイツ完成
富山勤労者総合福祉センター「呉羽ハイイツ」の開館式は北里雇用促進事業団理事、中田知事、改井富山市長ら四〇〇人が出席して行われた。

●五月一日 風土記の丘オープン
立山町芦野寺に建設された風土記の丘の開所式は立山民俗資料館で行われた。
県が文化庁などの協力で総工費一億五、〇〇〇万円をかけて完成したもので、全国五番目の風土記の丘。

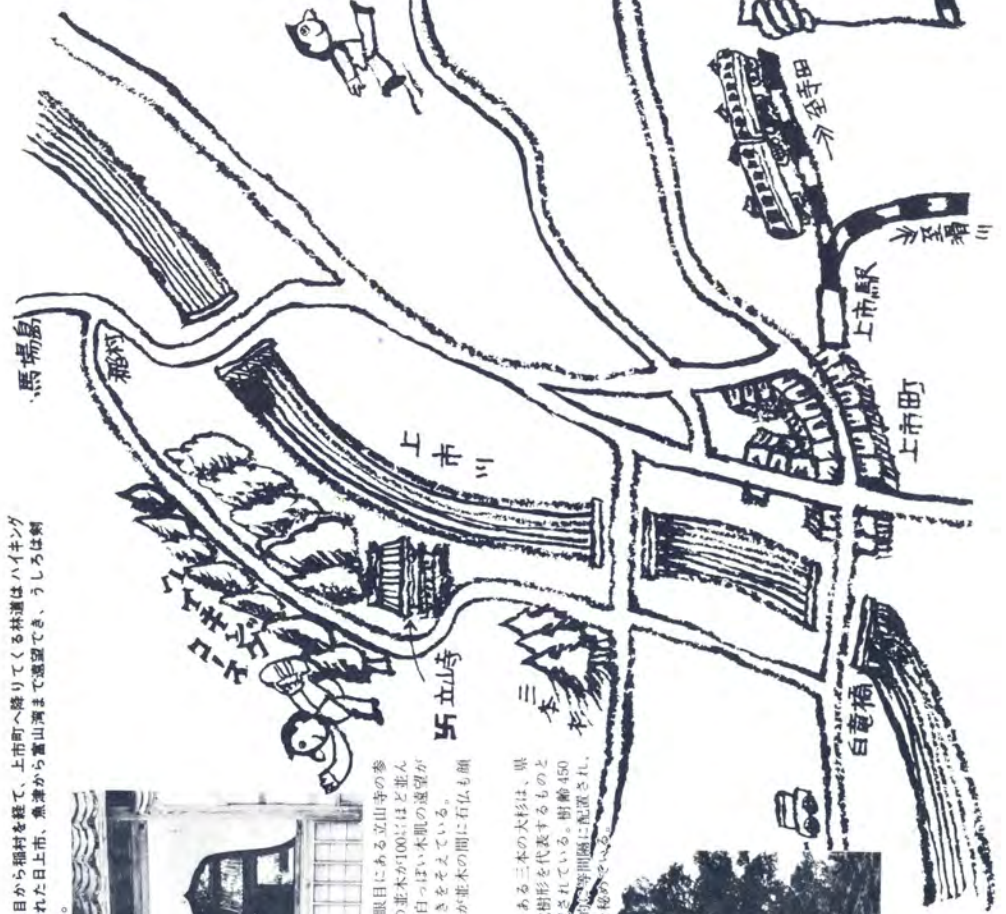
●五月二日 北陸新幹線基本計画に
鉄道建設審議会は北陸新幹線など三路線を基本計画に組み入れることを適当と認め、丹羽運輸大臣に答申した。



●大岩山日石寺
俗は大岩不動とよばれ眼病に霊験があるとあって参詣者が多い。
不動堂、鐘楼、観音堂、三重の塔などがあり、境内は広く46年に新しく12支の魂がつくり、境内は巨岩怪石も多く洞窟、深流、飛瀑がある。巨岩怪石を総称して岩瀑といひ、すくねるので寺地を総称して岩瀑といひ、すくねる景勝地をなしている。
近くにある茶居のソウメンは清流にさらさらな涼しい味覚として好評



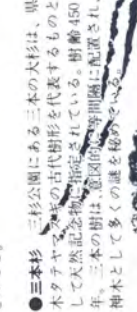
大岩不動



●立山寺参道 立山町眼目にある立山寺の参道の向わきに「とが」の並木が1000はほど並んでいる。濃緑の枝葉と白っぽい木肌の遠望がよく、寺院の参道に趣きをそまえている。周囲3メートルのとが並木の間に石仏も顔をみせる。



●三本杉 三杉公園にある三本の杉は、草木分やで、樹の古代樹形を代表するものとして天然記念物指定されている。樹齢450年。三本の樹は、意匠的等間隔に配置され、樹木として多くの温帯を秘めている。



●三本杉



●立山

上市川周辺

レクリエーション
コース

● 谷間に光を



豊かなコロニー
みんなの善い
曲がコロニー
みんなの善い